

2024年7月
沖縄県退職者連合

人間としての心は無いのですか

沖縄県内では、また、また、米兵による事件が起こっております。
新聞やテレビなどで知っていると思いますが、改めて報告させていただきます。

米兵による少女誘拐暴行事件が起こり、検察は起訴まで持って行ったということ。

しかし、このことを私たち沖縄県民は、知りませんでした。

県民だけではありません、県知事にも知らされていませんでした。

米兵による犯罪の被害者が沖縄県民であるにもかかわらず、県民を代表する知事にさえ、米軍も日本政府も米兵の犯罪行為を半年もの間、明らかにしていなかったのです。

沖縄県議選が終わるまで県警は隠蔽し続け、県知事にも知らせませんでした。

6月の県議会議員選挙の前や選挙最中に明らかにすれば、岸田政権はもとより、自民党や自民系の議員と予定候補が不利になることを警察が忖度したとしか思えません。

事件は昨年末のことですから、この半年間に岸田総理は、今年4月の訪米でバイデン大統領と握手までしています。米兵による婦女暴行事件は無かったかのように。

さらに去る6月23日の沖縄慰霊の日の戦没者追悼の前後には、県知事や県民に「お詫び」のコメントを出す機会がありました。

なのに、知らんぷり。岸田総理は戦没者にどんな気持ちで哀悼の意を捧げたのでしょうか。

国民一人ひとりの人権を尊重し守り抜かねばならない総理大臣が、アメリカにただただ追従し、在日米軍人の横暴、いや米兵の犯罪にさえ抗議しない、女性しかも未成年の少女が米兵から性的暴行を受けて裁判も始まるというのに。

そんな日本政府の対応から、第1回公判で「アーム・ノット・ギルティ」"私は無実だ"と米兵(25歳)は事件を否定しています。

これらの問題が片付かない中で、米兵による女性への暴行・未遂事件

以外にも米兵による事件は、その後も起こっています。

戦後79年、復帰50年を過ぎてなお、米軍は女性の尊厳を傷つけ沖縄県民を愚弄し続けています。それを許しているのは誰でしょうか。

これでは復帰前より最悪です。米国の意のまま、日本政府は、艦砲と戦車で沖縄に上陸して来た米軍に占領支配れていた時代よりも最悪な米軍駐留を認めているのです。

本当に、岸田総理、外務大臣は、痛みを感じないのでしょうか。

これでは沖縄戦が終わったとは言えません。沖縄が祖国復帰したとも言えません。

アメリカと日本政府が一体となって沖縄県を支配する、米兵の犯罪による悲しみの絶えない沖縄です。

日本退職者連合
2024 全国組織代表者会議
第28回定期総会 発言主旨